

浜の活力再生プラン

令和 6～10 年度

第 3 期

1 地域水産業再生委員会

組織名	戸田地区地域水産業再生委員会
代表者名	塩崎 敏巳（戸田漁業協同組合 代表理事組合長）

再生委員会の構成員	戸田漁業協同組合、戸田まき網漁業者協会 戸田底びき網組合、戸田小釣協会、沼津市
オブザーバー	静岡県

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	小型機船底びき網漁業（8 経営体）漁業者数 19 名 沿岸漁業代表（101 経営体）漁業者数 75 名 准組合員、員外者含む （令和 4 年 12 月 31 日時点）
-------------------	--

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

沼津市戸田は、静岡県伊豆半島西海岸に面し「夕映えと山海の里」とも呼ばれ、海と山に囲まれた豊かな自然と美しい景観に恵まれた漁村である。旧戸田村は平成 17 年 4 月に沼津市と合併し、その後は同市の最南端に位置する奥座敷的な存在となっている。沿岸や漁港内は、アジ・タイ・イサギ・ムツ・メジナ・イカなど季節によって様々な魚が釣れるフィッシングポイントとしても絶好な場所でもあり、また、三方を達磨山、真城山など山々に囲まれた海の幸、山の幸に恵まれた環境にある。

当地区の主幹産業は漁業であり、江戸時代から戦後にかけてはカツオ・マグロ漁が盛んで、特に昭和 50 年代半ばまでは遠洋かつお・まぐろ漁業の一大漁業基地であった。現在はまき網漁業（アジ、サバ、イワシ、カツオ、マグロ漁）を中心に小型底びき網漁業（エビ、手長エビ、メヒカリ、ムツ、カサゴ）、一本釣りや刺網等の沿岸漁業（タイ、イセエビ、サザエ）など多岐にわたる漁業が営まれ、静岡県内でも有数の漁業地区であるが、当地区には魚市場がないため、主に、近隣の沼津港、焼津港、小川港や銚子港、三陸沿岸の市場に水揚げあるいは陸送で出荷している。

当地区の主力である大中型まき網は現在（令和 4 年時点）で 3 船団、全体で年間 57,130 トン、日本有数の揚げ実績を誇っており、漁業就業者も水産高校や漁業高等学園の卒業生を中心に県内外からの若い担い手が就業している。しかしながら近年、資源状況の変化等により操業場所が北上し、銚子、塩釜、気仙沼、八戸等を基地として遠方の漁場で操業を行っており、燃油高騰も影響し操業コストの増大が漁業経営を圧迫している。漁場が遠方になったことにより、戸田漁港への水揚げ機会が減少し、大中型まき網漁船の漁獲物を地区で活用することが困難になった、という状況の変化も発生している。

また、底びき網漁業、沿岸漁業は、高齢化による漁業者の減少、次世代の担い手の不足が顕著に現れており、ピーク時には 1,000 人以上いた正組合員数も現在では 146 人となるなど漁業を取り巻く環境は厳しさを増している。

一方、まき網漁船や底びき網、沿岸漁船が漁獲した水揚げ物の一部は、漁協が漁船と直接取引で買い入れ、3 台の移動販売車にて週末の朝市、県内東部 3 ヶ所の J A 直売所で出張販売

を行っている。これらはいずれも消費者と対面の直接販売であり、鮮魚を中心に、地元住民や観光客に口コミ等で人気である。また、小型機船底びき網漁業で獲られる世界で1番大きい高足ガニや深海魚、駿河湾の本えび等はマスコミにも取り上げられ、地元特産品として注目が集まっている。

(2) その他の関連する現状等

当地区は三方を山で囲まれているため、昔から陸の孤島と呼ばれ、地震・津波・高潮対策や道路のインフラ整備も余り進んでおらず、自家用車で市の商業圏へは1時間、近隣の商業圏へは30分かかるのが現状である。このため、多数の従業員を雇用していた企業等が近隣に整備された工業団地へ移転し、それに伴い若年層も人口流出し、過疎化・高齢化が進んでいる。また、漁業以外の重要な主幹産業である観光業については、新鮮な魚介類を求めて旅館や民宿に多数来ていた観光客が年々減少しており、地域の魅力の発信、地域の活性化が課題となっている。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

第2期プランでは、海外まき網、遠洋かつおまぐろ一本釣り、大中型まき網漁業をプランに含めていたが、近年、漁場が遠方となり、戸田地区への水揚げ機会が減少しているため、漁協と連携した取組が推進しづらい状況にある。このため、前期プランの課題を踏まえ、引き続き所得向上の取組は継続するが、今期プランでは、これらの漁業種類についてはプランに位置づけないこととする。小型底曳き網漁業、沿岸漁業については、第2期の取組の中で現在も継続しているものを引き続き行うと共に、第2期策定時とは漁業環境も変わっているため、現在の状況を踏まえた取組を実践していく。

1 漁業収入のための取組

◆小型機船底びき網漁業

戸田の本えびは、駿河湾の海洋深層水に育まれた幻のえびとして「しずおか食セレクション」に認定されたほか、沼津市のふるさと納税の特産品としても人気がある。

漁協は、前期プランに引き続き、地域活性化、魚食普及及び地産地消を目的に、底びき網漁船から、本エビを含む漁獲物を直接取引で買い入れ、直売所及び朝市での販売を継続していく。また、漁協は、6次産業化の礎として、3台の移動販売車による県内東部3カ所のJ A直売所への出張販売の取組を継続し、駿河湾の本えびなど消費者ニーズを踏まえた魚種を積極的に提供していくこととする。

今期プランでは、現在建替えを計画している漁協施設において積極的に水産物の販売に取り組むとともに、市内の4漁協が連携して水産物を販売する取組を活用し、市内の他3漁協の直売所、地域のイベント、山梨県をはじめとした他地区での販売を行うことで、販売先を開拓し、販売量を増加させる。

さらに、本漁法は未利用魚が多く漁獲されるため、漁協は、未利用魚を活用した新規商品の開発を行うとともに、メギス等のすでに活用されている魚種についても、新規の活用方法を検討する。

漁業者は、前期プランに引き続き、魚市場の市場価格を見ながらの協定休漁を設けることにより魚価単価の向上を図る。

◆沿岸漁業

漁業者は、鮮魚・活魚出荷の高鮮度化を図り、魚価向上のため漁業者それぞれで行っている魚箱や氷の使い方に関する工夫を継続していく。マダイ・ヒラメ・アワビの種苗放流や密漁等の漁場管理を継続して実施する。また、近年の環境変化の影響により増加してきたハタ類等の魚種を積極的に漁獲し市場出荷をすることで、収入増加を目指す。

前期プラン中に、磯焼けが発生し、磯根資源が減少していることから、漁協は、藻場の衰退による磯根資源の減少を防止するため、食害生物であるガンガゼの駆除を実施する。これにより、アワビやサザエの資源を回復させ、漁業者の収入増加を目指す。

2 漁業コスト削減のための取組

◆小型機船底びき網漁業

魚市場の市場価格を見ながら協定休漁をもうけ、出漁回数を削減することで、操業コストを削減する。

上記の取組と併せて全漁業者は、漁船燃費向上のための船底状態の改善や漁場までの減速航行を実施する。また、漁協は、漁業者に対し、漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を推進し、燃油高騰時の漁業コストの削減に努める。

3 漁村の活性化のための取組

戸田地区では、深海魚の聖地として深海魚の展示施設設置やイベント開催などを積極的に行っていることから、漁協は、引き続き沼津市や地元関係者等と連携しながら深海魚を有効活用することで、戸田地区の観光振興を図る。

漁協及び漁業者は、地区の観光協会等と協力し、海からの集客やレジャー人口の誘致を図り、地域の活性化につなげるとともに、深海生物を活用した海業の取組を推進する。

(3) 資源管理に係る取組

◆小型機船底びき網漁業

1日の操業回数の削減による資源保護活動（駿河湾地区申合せ事項）
 地域魚市場の相場状況を勘案した適切な休漁等の実施による資源保護活動（沼津地区申合せ事項）

◆沿岸漁業

港内刺網漁禁止等による資源保護（漁協内規）
 港内投錨釣り禁止による磯根の保護（漁協内規）
 刺網漁は月1度の休漁期間（4日間）を設けての資源保護活動（申合せ事項）
 他地区漁業権内への入漁協定の締結
 共同漁業権内行使規則による資源保護（戸田漁業協同組合総会）
 マダイ・ヒラメ・アワビの種苗放流や密漁等の漁場管理を継続して実施。

※プランの取組に関連する漁業調整規則、漁業調整委員会指示、漁業権行使規則、資源管理協定、関係漁業者間の自主規制等を記載。

(4) 具体的な取組内容

1年目（令和6年度） 所得向上率（基準年比）3.3%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>◆小型機船底びき網漁業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○魚価向上、販売量増加の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、本えび等の漁獲物を船上で速やかに仕分けし、氷冷することで、えびの鮮度を維持する。漁協は、このえび等を漁船から直接買い入れ、移動販売車での出張販売を行うほか、水揚げ後すぐに急速冷凍を行うことで、唯一無二の鮮度で、刺身や天ぷら等に手軽に調理可能な冷凍パックを製造し、令和6年度にオープン予定の新たな漁協施設で販売を行う。これにより、本エビをはじめとした水産物の価値向上を図り、平均単価を向上させる。（継続） ・本えび販売の取組を拡大し、山梨県や、県内のイベントにおいても販売を行うことで、知名度の向上や、販売量の増加を図る。（拡大） ・漁業者は、魚市場の市場価格を見ながらの協定休漁を引き続き設けることにより魚価単価の向上やコスト削減を図る。（継続） ○新商品、新規活用法の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、底曳網で漁獲される未利用魚を活用したねりもの等の新商品の開発に向け、適した未利用魚の選定を行うとともに、近隣の水産加工会社を模索する。（新規） ・漁協は、高品質な個体の高付加価値化を進めるため、水産・海洋技術研究所と協力し、メギスの脂肪含量の測定を可能にする。（新規） <p>◆沿岸漁業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○所得向上に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、一本釣りや刺網の鮮魚・活魚出荷の高鮮度化を図り、魚価向上のため漁業者がそれぞれ行っている魚箱や氷の工夫を継続していくとともに、色を保つために新聞紙でくるむなど、出荷や漁獲物の取扱手法にかかる知識・技術を漁業者間で共有する。（継続）
---------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、環境の変化に対応し、近年増加してきたハタ類等の高級な魚種を積極的に漁獲し、収入の増加を図る。（新規） ・漁業者は、漁協が毎週開催している朝市（漁協駐車場）に地魚鮮魚を出品することで所得向上を図る。（継続） <p>○資源回復に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、磯焼けによる磯根資源の減少を防止するため、食害生物であるガンガゼの駆除を実施する。（新規） ・漁業者、漁協はマダイ、ヒラメ、アワビの種苗放流を行い、資源の増加を図る。（継続） ・漁業者、漁協はGW、夏期期間、週末の監視船による密漁パトロール、警察と共同で実施する港内夜間密漁パトロール等の取組を継続する。（継続）
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。 ・洋上や漁場までの減速航行、年1回以上の船底状態改善を実施する。また、水抵抗の少ない（5%程度）船底塗料を導入する。 ・小型底びき網漁業について、漁業者は、市場価格を十分に勘案して適切な休漁日等を設定する。
漁村の活性化のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・戸田地区では、深海魚の聖地として深海魚の展示施設設置やイベント開催などを積極的に行っていることから、漁協は、引き続き沼津市や地元関係者等と連携しながら深海魚を有効活用することで、戸田地区の観光振興を図る。 ・漁協及び漁業者は、地区の観光協会等と協力し、海からの集客やレジャー人口の誘致を図り、地域の活性化につなげるとともに、深海生物を活用した海業の取組を推進する。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・新規漁業就業者総合支援事業（国） ・水産業共同施設整備事業（県） ・沼津市水産業振興新事業（大型船）（市） ・沼津市出漁促進事業（小型船）（市） ・沼津市種苗放流、魚食普及事業（市）

2年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比）5.1%

漁業収入向上のための取組	<p>◆小型機船底びき網漁業</p> <p>○魚価向上、販売量増加の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、本えび等の漁獲物を船上で速やかに仕分けし、氷冷することで、えびの鮮度を維持する。漁協は、このえび等を漁船から直接買い入れ、移動販売車での出張販売を行うほか、水揚げ後すぐに急速冷凍を行うことで、唯一無二の鮮度で、刺身や天ぷら等に手軽に調理可能な冷凍パックを製造し、令和6年度にオープン予定の新たな漁協施設で販売を行う。これにより、本エビをはじめとした水産物の価値向上を図り、平均単価を向上させる。（継続） ・今期プランでは、上記取組を拡大し、山梨県や、県内のイベントにおいても販売を行うことで、知名度の向上や、販売量の増加を図る。（拡大） ・漁業者は、魚市場の市場価格を見ながらの協定休漁を引き続き設けることにより魚価単価の向上やコスト削減を図る。（継続） <p>○新商品、新規活用法の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、底曳網で漁獲される未利用魚を活用したねりもの等の新商品の開発に向け、適した未利用魚の選定を行うとともに、近隣の水産加工会社を模索する。（新規）
--------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、水産・海洋技術研究所と協力して確立させたメギスの脂肪含量の測定を実施し、脂のりの良い個体について、付加価値をつけて販売することで魚価向上を図る。（新規） <p>◆沿岸漁業</p> <p>○所得向上に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、一本釣りや刺網の鮮魚・活魚出荷の高鮮度化を図り、魚価向上のため漁業者がそれぞれ行っている魚箱や氷の工夫を継続していくとともに、漁業者間で色を保つために新聞紙でくるむなど、出荷や漁獲物の取扱手法にかかる知識・技術を共有する。（継続） ・漁業者は、環境の変化に対応し、近年増加してきたハタ類等の高級な魚種を積極的に漁獲し、収入の増加を図る。（新規） ・漁業者は、漁協が毎週開催している朝市（漁協駐車場）に地魚鮮魚を出品することで所得向上を図る。（継続） <p>○資源回復に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、磯焼けによる磯根資源の減少を防止するため、食害生物であるガンガゼの駆除を実施する。（新規） ・漁業者、漁協はマダイ、ヒラメ、アワビの種苗放流を行い、資源の増加を図る。（継続） ・漁業者、漁協はGW、夏期期間、週末の監視船による密漁パトロール、警察と共同で実施する港内夜間密漁パトロール等の取組を継続する。（継続）
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。 ・洋上や漁場までの減速航行、年1回以上の船底状態改善を実施する。また、水抵抗の少ない（5%程度）船底塗料を導入する。 ・小型底びき網漁業について、漁業者は、市場価格を十分に勘案して適切な休漁日等を設定する。
漁村の活性化のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・戸田地区では、深海魚の聖地として深海魚の展示施設設置やイベント開催などを積極的に行っていることから、漁協は、引き続き沼津市や地元関係者等と連携しながら深海魚を有効活用することで、戸田地区の観光振興を図る。 ・漁協及び漁業者は、地区の観光協会等と協力し、海からの集客やレジャー人口の誘致を図り、地域の活性化につなげるとともに、深海生物を活用した海業の取組を推進する。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・新規漁業就業者総合支援事業（国） ・水産業共同施設整備事業（県） ・沼津市水産業振興新事業（大型船）（市） ・沼津市出漁促進事業（小型船）（市） ・沼津市種苗放流、魚食普及事業（市）

3年目（令和8年度） 所得向上率（基準年比）6.9%

漁業収入向上のための取組	<p>◆小型機船底びき網漁業</p> <p>○魚価向上、販売量増加の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、本えび等の漁獲物を船上で速やかに仕分けし、氷冷することで、えびの鮮度を維持する。漁協は、このえび等を漁船から直接買い入れ、移動販売車での出張販売を行うほか、水揚げ後すぐに急速冷凍を行うことで、唯一無二の鮮度で、刺身や天ぷら等に手軽に調理可
--------------	--

	<p>能な冷凍パックを製造し、令和6年度にオープン予定の新たな漁協施設で販売を行う。これにより、本エビをはじめとした水産物の価値向上を図り、平均単価を向上させる。（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今期プランでは、上記取組を拡大し、山梨県や、県内のイベントにおいても販売を行うことで、知名度の向上や、販売量の増加を図る。（拡大） ・漁業者は、魚市場の市場価格を見ながらの協定休漁を引き続き設けることにより魚価単価の向上やコスト削減を図る。（継続） <p>○新商品、新規活用法の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、底曳網で漁獲される未利用魚を活用したねりもの等の新商品の開発に向け、水産加工会社と打合せを行い、新商品の案を検討する。（新規） ・漁協は、メギスについて、脂のりの良い個体の高付加価値化を進めるとともに、脂のりに応じた調理方法を提案することで、魚価の向上を図る。（新規） <p>◆沿岸漁業</p> <p>○所得向上に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、一本釣りや刺網の鮮魚・活魚出荷の高鮮度化を図り、魚価向上のため漁業者がそれぞれ行っている魚箱や氷の工夫を継続していくとともに、漁業者間で色を保つために新聞紙でくるむなど、出荷や漁獲物の取扱手法にかかる知識・技術を共有する。（継続） ・漁業者は、環境の変化に対応し、近年増加してきたハタ類等の高級な魚種を積極的に漁獲し、収入の増加を図る。（新規） ・漁業者は、漁協が毎週開催している朝市（漁協駐車場）に地魚鮮魚を出品することで所得向上を図る。（継続） <p>○資源回復に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、磯焼けによる磯根資源の減少を防止するため、食害生物であるガンガゼの駆除を実施する。（新規） ・漁業者、漁協はマダイ、ヒラメ、アワビの種苗放流を行い、資源の増加を図る。（継続） ・漁業者、漁協はGW、夏期間、週末の監視船による密漁パトロール、警察と共同で実施する港内夜間密漁パトロール等の取組を継続する。（継続）
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。 ・洋上や漁場までの減速航行、年1回以上の船底状態改善を実施する。また、水抵抗の少ない（5%程度）船底塗料を導入する。 ・小型底びき網漁業について、漁業者は、市場価格を十分に勘案して適切な休漁日等を設定する。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・戸田地区では、深海魚の聖地として深海魚の展示施設設置やイベント開催などを積極的に行っていることから、漁協は、引き続き沼津市や地元関係者等と連携しながら深海魚を有効活用することで、戸田地区の観光振興を図る。 ・漁協及び漁業者は、地区の観光協会等と協力し、海からの集客やレジャー人口の誘致を図り、地域の活性化につなげるとともに、深海生物を活用した海業の取組を推進する。
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・新規漁業就業者総合支援事業（国） ・水産業共同施設整備事業（県） ・沼津市水産業振興新事業（大型船）（市）

	<ul style="list-style-type: none"> ・沼津市出漁促進事業（小型船）（市） ・沼津市種苗放流、魚食普及事業（市）
--	--

4年目（令和9年度） 所得向上率（基準年比）8.7%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆小型機船底びき網漁業 <ul style="list-style-type: none"> ○魚価向上、販売量増加の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、本えび等の漁獲物を船上で速やかに仕分けし、氷冷することで、えびの鮮度を維持する。漁協は、このえび等を漁船から直接買い入れ、移動販売車での出張販売を行うほか、水揚げ後すぐに急速冷凍を行うことで、唯一無二の鮮度で、刺身や天ぷら等に手軽に調理可能な冷凍パックを製造し、令和6年度にオープン予定の新たな漁協施設で販売を行う。これにより、本エビをはじめとした水産物の価値向上を図り、平均単価を向上させる。（継続） ・今期プランでは、上記取組を拡大し、山梨県や、県内のイベントにおいても販売を行うことで、知名度の向上や、販売量の増加を図る。（拡大） ・漁業者は、魚市場の市場価格を見ながらの協定休漁を引き続き設けることにより魚価単価の向上やコスト削減を図る。（継続） ○新商品、新規活用法の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、底曳網で漁獲される未利用魚を活用したねりもの等の新商品の開発に向け、水産加工会社と打合せを行い、新商品の案を検討する。（新規） ・漁協は、水産・海洋技術研究所と協力し、メヒカリについての脂肪含量の測定方法を確立し、脂のりの良い個体について、付加価値をつけて販売することを検討する。（新規） ◆沿岸漁業 <ul style="list-style-type: none"> ○所得向上に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、一本釣りや刺網の鮮魚・活魚出荷の高鮮度化を図り、魚価向上のため漁業者がそれぞれ行っている魚箱や氷の工夫を継続していくとともに、漁業者間で色を保つために新聞紙でくるむなど、出荷や漁獲物の取扱手法にかかる知識・技術を共有する。（継続） ・漁業者は、環境の変化に対応し、近年増加してきたハタ類等の高級な魚種を積極的に漁獲し、収入の増加を図る。（新規） ・漁業者は、漁協が毎週開催している朝市（漁協駐車場）に地魚鮮魚を出品することで所得向上を図る。（継続） ○資源回復に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、磯焼けによる磯根資源の減少を防止するため、食害生物であるガンガゼの駆除を実施する。（新規） ・漁業者、漁協はマダイ、ヒラメ、アワビの種苗放流を行い、資源の増加を図る。（継続） ・漁業者、漁協はGW、夏期期間、週末の監視船による密漁パトロール、警察と共同で実施する港内夜間密漁パトロール等の取組を継続する。（継続）
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。 ・洋上や漁場までの減速航行、年1回以上の船底状態改善を実施する。また、水抵抗の少ない（5%程度）船底塗料を導入する。 ・小型底びき網漁業について、漁業者は、市場価格を十分に勘案して適切な休漁日等を設定する。

<p>漁村の活性化のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・戸田地区では、深海魚の聖地として深海魚の展示施設設置やイベント開催などを積極的に行っていることから、漁協は、引き続き沼津市や地元関係者等と連携しながら深海魚を有効活用することで、戸田地区の観光振興を図る。 ・漁協及び漁業者は、地区の観光協会等と協力し、海からの集客やレジャー人口の誘致を図り、地域の活性化につなげるとともに、深海生物を活用した海業の取組を推進する。
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・新規漁業就業者総合支援事業（国） ・水産業共同施設整備事業（県） ・沼津市水産業振興新事業（大型船）（市） ・沼津市出漁促進事業（小型船）（市） ・沼津市種苗放流、魚食普及事業（市）

5 年目（令和 10 年度） 所得向上率（基準年比）10.5%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆小型機船底びき網漁業 <ul style="list-style-type: none"> ○魚価向上、販売量増加の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、本えび等の漁獲物を船上で速やかに仕分けし、氷冷することで、えびの鮮度を維持する。漁協は、このえび等を漁船から直接買い入れ、移動販売車での出張販売を行うほか、水揚げ後すぐに急速冷凍を行うことで、唯一無二の鮮度で、刺身や天ぷら等に手軽に調理可能な冷凍パックを製造し、令和6年度にオープン予定の新たな漁協施設で販売を行う。これにより、本エビをはじめとした水産物の価値向上を図り、平均単価を向上させる。（継続） ・今期プランでは、上記取組を拡大し、山梨県や、県内のイベントにおいても販売を行うことで、知名度の向上や、販売量の増加を図る。（拡大） ・漁業者は、魚市場の市場価格を見ながらの協定休漁を引き続き設けることにより魚価単価の向上やコスト削減を図る。（継続） ○新商品、新規活用法の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、底曳網で漁獲される未利用魚を活用したねりもの等の新商品の開発に向け、水産加工会社と協力し、新商品を試作する。（新規） ・漁協は、メヒカリについて、脂のりの良い個体の高付加価値化を進めるとともに、脂のりに応じた調理方法を提案することで、魚価の向上を図る。（新規） ◆沿岸漁業 <ul style="list-style-type: none"> ○所得向上に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、一本釣りや刺網の鮮魚・活魚出荷の高鮮度化を図り、魚価向上のため漁業者がそれぞれ行っている魚箱や氷の工夫を継続していくとともに、漁業者間で色を保つために新聞紙でくるむなど、出荷や漁獲物の取扱手法にかかる知識・技術を共有する。（継続） ・漁業者は、環境の変化に対応し、近年増加してきたハタ類等の高級な魚種を積極的に漁獲し、収入の増加を図る。（新規） ・漁業者は、漁協が毎週開催している朝市（漁協駐車場）に地魚鮮魚を出品することで所得向上を図る。（継続） ○資源回復に向けた取組
---------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、磯焼けによる磯根資源の減少を防止するため、食害生物であるガンガゼの駆除を実施する。（新規） ・漁業者、漁協はマダイ、ヒラメ、アワビの種苗放流を行い、資源の増加を図る。（継続） ・漁業者、漁協はGW、夏期期間、週末の監視船による密漁パトロール、警察と共同で実施する港内夜間密漁パトロール等の取組を継続する。（継続）
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。 ・洋上や漁場までの減速航行、年1回以上の船底状態改善を実施する。また、水抵抗の少ない（5%程度）船底塗料を導入する。 ・小型底びき網漁業について、漁業者は、市場価格を十分に勘案して適切な休漁日等を設定する。
漁村の活性化のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・戸田地区では、深海魚の聖地として深海魚の展示施設設置やイベント開催などを積極的に行っていることから、漁協は、引き続き沼津市や地元関係者等と連携しながら深海魚を有効活用することで、戸田地区の観光振興を図る。 ・漁協及び漁業者は、地区の観光協会等と協力し、海からの集客やレジャー人口の誘致を図り、地域の活性化につなげるとともに、深海生物を活用した海業の取組を推進する。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・新規漁業就業者総合支援事業（国） ・水産業共同施設整備事業（県） ・沼津市水産業振興新事業（大型船）（市） ・沼津市出漁促進事業（小型船）（市） ・沼津市種苗放流、魚食普及事業（市）

(5) 関係機関との連携

海業による取組を円滑に遂行するため、戸田観光協会、商工会、静岡県及び沼津市の関係各課と連携して打合せを実施するなどし、地域の活性化につなげる。

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

浜プランの取組の実施状況及び効果の発現状況を自ら評価・分析し、それを踏まえた取組の改善を検討するため、進捗管理チェックシートを作成し、年に1回、委員による進捗状況の確認を行う。

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の向上 10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

水産物の単価向上 (10%以上)	基準年	平成 30～令和 4 年度 5 年平均：	本エビ メヒカリ	1170 円/kg 420 円/kg
	目標年	令和 10 年度：	本エビ メヒカリ	1290 円/kg 470 円/kg

深海魚関連イベント の増加	基準年	平成 30～令和 4 年度 5 年平均：	深海魚関連イベ ントの実施回数	3 回/年
	目標年	令和 10 年度：	深海魚関連イベ ントの実施回数	6 回/年

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>算出基準年は、漁協が販売強化に取り組む魚種（本エビ、メヒカリ）について、平成 30 年から令和 4 年の過去 5 年間に漁協が漁業者から購入した際の買上単価を平均した数値である。</p> <p>平成 25 年～29 年の 5 中 3 の平均価格は、それぞれ、本エビ：968 円/kg、メヒカリ：348 円/kg であり、過去に実施したブランド化の取組や、2 期プランで実施した直売所における販売の効果で着実に魚価が向上している。3 期プランでは、これまでの取組を継続し、さらに県外やイベントにおける販売を行ない、知名度の向上を行うため、目標年における基準年からの魚価 10% の向上は妥当と考えられる。</p> <p>深海魚関連イベントについては、平成 30 年から令和 4 年の過去 5 年間の平均実施回数を基準年の数値とした。近年は新型コロナウイルスの影響でイベントが自粛傾向だったが、行動制限も解除されたことから、目標とした 6 回/年のイベントの実施は十分に達成可能であると考えられる。</p>
--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティネット構築事業（国）	漁業者と国の拠出により。燃油価格などが高騰したときに補助金を交付する。 ⇒プランの取組全体を支える。
新規漁業就業者総合支援事業（国）	地域漁業の担い手を確保・育成するため、漁業への就業を希望する者を総合的に支援する。

	⇒プラン実施で改善をめざしている後継者対策、担い手対策を進める。
水産業共同施設整備事業（県）	水産業の活性化と振興を図るため、市町や水産関係団体が実施する施設整備事業に対し補助金を交付する。 ⇒水産物の付加価値向上や新商品開発など、6次産業化の推進に必要な加工関連施設の整備により、浜プランの効果が向上する。
沼津市水産業振興新事業（大型船）（市）	水揚量を確保し、流通促進を図るため、大型船を対象に、水揚金額の一部相当の補助金を交付する。 ⇒漁業の経営安定化に寄与し、浜プランの着実な実施を支える。
沼津市出漁促進事業（小型船）（市）	水揚量を確保し、流通促進を図るため、小型船を対象に、水揚回数に応じた補助金を交付する。 ⇒漁業の経営安定化に寄与し、浜プランの着実な実施を支える。
沼津市種苗放流、魚食普及事業（市）	種苗放流の実施による水産資源の増大及び、各種催物又は講習会の実施による水産物の消費拡大を図る。 ⇒プランの取組全体を支える。